ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HIV	Clin Infect Dis 2007; 45: e68-e71	ボツワナで急性HIV-1感染スクリーニング中に特定された抗体陰性のHIV-1サブタイプC感染の初の症例を報告する。HIV-1抗体検査の結果は、迅速検査、通常の酵素免疫測定法及びウエスタンブロットで全て陰性であった。遺伝子組換えがないHIV-1サブタイプC感染は、ウイルスのgag、pol及びenv遺伝子のジェノタイピングによって確定された。臨床的に安定した状態からAIDS関連死までの期間は約3ヵ月だった。サブタイプCが優勢なアフリカ南部における血清学検査陰性HIV-1感染の調査の重要性が示された。
												麻疹	asahi.com 2007年4月18日	東京都や埼玉県など関東地方ではしかが流行していることが、国立感染症研究所感染症情報センターがまとめた定点調査でわかった。例年より流行は早く、人の移動が活発になる連休に向けてさらに広がることが予想されるとして、同センターは緊急情報を出して注意を呼びかけている。同センターによると、例年、はしかの発症は乳幼児に多いが、今年の流行は10代前半や大人に多いのが特徴という。
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 11424-11429	マレーシアMelakaで、高熱と急性呼吸器疾患に罹っていた39歳男性から未知のreovirusが分離され、Melaka virusと名づけられた。患者の家族も発症したが、この家族は発症前にコウモリと接触していた。遺伝子配列分析により、Melakaウイルスは1999年に同国Tioman島のオオコウモリから分離されたreovirusであるPulauウイルスと密接な関係があることが示された。同島住民の血清スクリーニングで、109例中14例(13%)が両ウイルスに陽性であった。
												ウイルス感染	ProMED-mail 20070702.2108	2007年6月22日、ミクロネシアのヤップ保健局で集められた血液検体をCDCの研究所で検査した結果、ヤップでの最近の疾病はジカウイルスが原因らしいことが示された。ヤップのアウトブレイクは2007年4月に始まり、5月後半にピークに達し、現在も続いている。症状は斑点状丘疹、結膜炎、関節痛など軽症で、4-7日間続く。6月29日現在、42例がPCRとIgM分析によってジカウイルス感染と確定された。死亡例はない。